

公益社団法人日本地震学会平成29年度第5回理事会議事録

1. 日 時 平成30年3月9日(金) 10:00~13:10
2. 場 所 東京大学地震研究所1号館 事務会議室A
3. 理事数 15名
4. 出席者 理事12名, 監事3名, オブザーバー3名
 - ・理事: 山岡耕春, 谷岡勇市郎, 古村孝志, 木下正高, 河合研志, 佐藤利典, 竹中博士, 津村紀子, 鶴岡 弘, 中川和之, 馬場俊孝, 山野 誠
 - ・監事: 石川有三, 加藤照之, 鈴木善和
 - ・オブザーバー: 論文賞選考委員長, 若手学術奨励賞選考委員長, 汐見勝彦
 - ・事務局: 中西のぶ江, 岡野美紀子

5. 審議事項

議長山岡耕春は、本日の理事会の理事出席者が12名であり定足数を満たしているため、理事会が成立することを宣言した。続いて、以下の議案について、逐次審議に入った。

第1号議案 論文賞・若手学術奨励賞の受賞者の決定について

2017年度若手学術奨励賞推薦候補者について若手学術奨励賞選考委員長より受賞候補者3名の選考理由について説明が行われた。審議の結果、若手学術奨励賞受賞者を以下の通り決定した。

○ 若手学術奨励賞

- ・ 新井 隆太
地震波構造探査に基づくプレート境界域の地震学的構造と地殻活動の解明
- ・ 仲田 典弘
地震波干渉法による構造の時間変化の検出と高分解能構造イメージング
- ・ 徐 世慶 (Xu, Shiqing)
モデリング・理論・室内実験による地震の物理の総合的理解に向けた学際的研究

2017年度論文賞推薦候補論文について、論文賞選考委員長より受賞候補論文3編の選考理由について説明が行われた。審議の結果、論文賞受賞対象論文を以下の通り決定した。

○ 論文賞

- ・ Determination of temporal changes in seismic velocity caused by volcanic activity in and around Hakone volcano, central Japan, using ambient seismic noise records
- ・ 著者: 行竹 洋平 (Yohei Yukutake), 上野 友岳 (Tomotake Ueno), 宮岡 一樹 (Kazuki Miyaoka)

・掲載誌：Progress in Earth and Planetary Science (2016) 3:29, DOI: 10.1186/s40645-016-0106-5

・千葉県北部の地震活動と同期した非地震性すべり

・著者：小林 昭夫, 弘瀬 冬樹

・掲載誌：地震第2輯v69, p. 1-9, 2016

・1906年 Ecuador-Colombia 巨大地震の地震および津波規模の再評価

・著者：都筑 基博, 小山 順二, Aditya R. GUSMAN, 蓬田 清

・掲載誌：地震第2輯v.69, p. 87-98, 2017

第2号議案 ASC2018の開催補助について

議長より、「ASC基金」に基づき四川省成都で開催されるASC2018大会への共催および支援について依頼文書が提示され、審議が行われた。平成29年度第3回理事会で決議した通り共催を承諾し、「ASC基金」の残高を開催補助金とすること、今回の開催補助金の拠出をもって「ASC基金」を清算することを承認した。

第3号議案 倫理委員会の委員について

木下常務理事より倫理委員会規則第3条4項に基づき、来年度の倫理委員会の委員委嘱について4名の委員候補者が提示され、原案通り承認された。

第4号議案 事務局職員給与について

木下常務理事より給与規定第5条に基づき、来年度の職員の俸給について俸給月額表に基づき説明が行われ、原案通り各職員の俸給月額を承認した。

第5号議案 2018年度事業計画案について

2018年度事業計画案について議長より説明が行われた。業務執行理事により担当の事業計画案の記載について確認が行われた。その後、事業計画案に関係することから、財務・運営の改善に関する対策の具体案について意見交換が行われ、対策を事業計画案に反映することとし、原案を一部修正し、理事メーリングリストで修正箇所を確認の上、承認することとした。

第6号議案 2018年度収支予算案について

2018年度収支予算案について、鶴岡会計担当理事より説明が行われた。審議の結果、原案を確認し、一部修正の上、全会一致で承認した。また、鶴岡理事より業務執行報告として2017年度決算について予算ほどの赤字にはならない予定であることが報告された。

第7号議案 謝金等支給規定および旅費規定について

事務局より、平成29年度第4回理事会において継続審議となった謝金等支給規定について、別表を改定した旨の説明が行われた。審議の結果、謝金等支給規定の制定を承認した。引き続き、旅費規定(案)についても現行の規定からの変更箇所の説明が行われた。宿泊に関する条文を現在運用されている距離や業務時間による条件ではなく、簡素な条件に改めたいとの意見が出され、継続審議とした。

第8号議案 IASPEI 関連事業基金の受け入れについて

事務局より、IAG-IASPEI2017 組織委員会より、IASPEI 関連事業のために使用する資金として1,905,920 円の入金があったことが報告された。資金の管理について審議を行い、IASPEI 関連事業基金の名目で特定費用準備資金として今年度の決算において基金建てすることとした。

第9号議案 日本ジオパーク委員会調査運営部会員の推薦について

中川理事より、日本ジオパーク委員会からの推薦依頼のあった日本ジオパーク委員会調査運営部会員の推薦について、日本ジオパーク委員会の新体制も含めて説明が行われた。ジオパーク支援委員会から中川理事を日本地震学会の推薦候補者として選出したいとの説明があり、中川理事の推薦について審議が行われた。審議の結果、中川理事を推薦することが承認された。

第10号議案 名誉会員の推薦について

議長より、名誉会員の推薦があったことが説明された。推薦人でもある加藤監事より、加藤監事の他6名から名誉会員に推挙された岡田義光会員の推薦理由が説明された。審議の結果、岡田義光会員の名誉会員推薦を全会一致で承認し、総会に付議することとした。

第11号議案 共催・後援・協賛依頼について

以下2件の資料が回覧され、審議の結果、共催・後援名義の使用を許可した。

共催：シンポジウム「南海トラフ巨大地震の広域被災に備える減災活動の現状と将来」
後援：「防犯防災総合展 in KANSAI 2018」

第12号議案 入会申請者の承認について

木下常務理事から、入会申請者の承認に関する件について諮られ、審議の結果、正会員に申し込みのあった3名(内学生0名)の入会を全会一致で承認した。

第13号議案 社会活動基金運用に関する規定の改訂について

中川理事より社会活動基金運用に関する規定の改正案が提示された。現行の規定では基金が使用できる社会活動が被災地に限定されていることから、想定被災地でも住民に対し

て同様の社会活動を行いたいとの要望があり、規定の改正について寄付者の意向の確認を行ったとの説明があった。審議の結果、改正案を全会一致で承認した。

6. 報告事項

以下の報告があった。

1.正会員 20 名（内、学生 3 名）の退会届が提出された。

2. 木下常務理事より、松島理事（災害調査担当）から提出された資料に基づき、業務執行報告が行われた。JpGU のユニオンセッション U-06 「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」において日本地震学会の災害対応に関する紹介を投稿したとの報告があり、アブストラクトが紹介された。なお、今回の投稿費については学会活動でもあることから学会から費用を出すこととした。

3. 議長より、岩田理事（欧文誌運営担当）から提出された資料に基づき、業務執行報告が行われた。第4回EPS運営委員会および平成29年度運営・編集合同委員会の開催、EPS誌学会間覚え書きが5学会間で取り交わされたこと、科研費の申請状況、特集号の企画募集について、広報活動について、EPS誌の2月26日時点での Impact Factor暫定値が2.514であったことが報告された。

4. 山野理事（学校教育担当）から業務執行報告が行われた。2018 年度の教員免許状更新講習の開設が現在のところ 11 件（うち 2 件は申請中）であること、3月3日に開催された委員会において、財務・運営の改善策に関して教員を対象とした施策の内、教員会費の対象者、秋季大会への参加、教員が会員となることのメリット、教員が使えるスタンダード PPT について議論を行ったとの報告があった。

5. 津村理事（広報担当）から業務執行報告が行われた。なみふる114号の編集方針、第44回記者懇談会の開催予定、南海トラフの地震に関する項目の追加に伴うホームページのFAQの改訂について、なみふるの投稿に関する規定について、委員の交代、来年度のスケジュールについて報告された。

6. 木下常務理事より、片尾理事（地震編集担当）から提出された資料に基づき、業務執行報告が行われた。来年度の委員構成について、現在編集集中の論文が6編、3月発行の地震に2編、71巻5月号には3編掲載予定であることが報告された。

7. 中川理事（普及行事・ジオパーク担当）から、業務執行報告が行われた。2019年度地震火山子どもサマースクール開催地の公募について2件の応募があり、地震火山子ども

サマースクール3学会連合企画委員会において選考を行い開催地を内定したことが報告された。2018年度地震火山こどもサマースクールについてはJpGUの開催中に実行委員会を開催する予定であること、普及行事委員会の委員構成について報告が行われた。ジオパーク支援委員会の活動については事業計画案に記載した通り活動を行う予定であることが報告された。

8. 竹中理事（強震動担当）から業務執行報告が行われた。3月5日に開催された強震動研究会について、第15回日本地震工学シンポジウムについて日本地震工学会深部地盤モデル化手法の検証に関わる研究委員会・日本活断層学会・日本建築学会地盤震動小委員会及び日本地震学会強震動委員会でセッション「長周期地震動から断層近傍パルスまで：予測と対策に向けて」を共同提案したことが報告された。

9. 古村理事（連絡会議担当）から業務執行報告が行われた。1月に会員へ参加案内を周知した災害情報学会の勉強会に地震学会会員が41名参加したことが報告された。また、議長からも同勉強会において日本地震学会会員の活発な発言が見られたとの報告が行われた。

10. 佐藤理事（海外渡航旅費助成金審査担当・表彰担当）から業務執行報告が行われた。平成30年度前期の海外渡航旅費助成金について6名の応募があり審査中であること、日本地震学会賞および技術開発賞の選考は3月中に行われる予定であることが報告された。

11. 馬場理事（大会・企画担当）から業務執行報告が行われた。次期委員長の紹介、日本地震工学会との合同大会を予定している2019年度秋季大会の開催準備状況の確認について報告された。

12. 河合理事（学会情報誌編集担当）から業務執行報告が行われた。次期委員長の紹介、過去のニューズレターの電子公開手続きにあたり個人情報等の公開に差し支えがある情報の取り扱いについて学会情報誌編集委員会で取りまとめた上で、理事会において確認をしてほしい旨の報告が行われた。

13. 木下常務理事より、選挙管理委員会から提出された日本地震学会代議員選挙報告資料に基づき報告が行われた。今回の代議員選挙の実施状況、開票作業や投票数についての検討事項および投票率向上に向けた改革案が合わせて報告された。また、規則の改正についても、今後の検討事項としてほしいとの報告も伝えられた。これらの報告を受け、次回代議員選挙に向けて次期の理事会において検討することとした。

7. その他（意見交換）

1. 議長より、今後の財務・運営の改善策について2月27日に開催されたタクスフォース2で検討された財務経営改善策について会議記録を基に説明が行われた。提案されている対策(会員増加策, 収入増加策, 退会会員の引き留め策, 会員メリットの創出)の実施に向け、意見交換が行われた。提示された対策に関して修正意見があり、2018年度事業計画案に各事業に反映できる施策については記載を行い、財務運営の改善策検討の活動についても記載を行うこととした。

2. 議長より ASC2020年大会の日本での開催が可能かどうかの調整連絡があったことが報告された。2020年は沖縄で秋季大会を開催する予定であることから秋季大会との同時開催等について意見交換が行われた。意見交換の結果、秋季大会との同時開催については現在検討している会場では広さが足りないこと、現地LOCの負担が増加することから国際大会の同時開催は難しいであろうとの回答を行うこととした。

3. 議長より JpGU から依頼のあったユニオンセッション「夢ロードマップ」08 に関するポスター発表について説明があり、日本地震学会では中長期計画を策定していないことから発表を見送ったことが報告された。夢ロードマップについて、今後検討するかどうか意見交換が行われた。

4. 議長より理学・工学系学協会連絡協議会に先立つご意見シートの作成について説明が行われた。意見交換の結果、3月30日に行われる理学・工学系学協会連絡協議会に出席予定である山岡会長がご意見シートに回答することとし、各理事から意見シートに記載したい事項があれば山岡会長へ連絡することとした。